

NPO法人若者就職支援協会 広報第二号

Young Employment Support Association (略称YES)

代表 挨拶



NPO法人若者就職支援協会
理事長 森智洋

若者就職支援協会（略称YES）代表の森智洋です。今回はYESの主たる事業であるキャリア教育部門についてご紹介します。

YESは現在、東京都教育委員会からの依頼として年間、約30件のキャリア教育授業を行っています。都立高等学校の生徒を対象にYESのスタッフが実際に学校に赴き授業を行っています。元々、YESは定時制高校を主体に活動をしてきておりました

○発行日…令和元年十一月二十三日（土）
○発行…NPO法人若者就職支援協会
東京都足立区千住旭町36番5号
○発行人…森智洋

が、近年は全日制高校からの希望も増加しつつあります。皆さんは定時制高校というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか。昼間は働き、夜間に勉強をする苦学生。私も数年前にYESの事業に関わる前は、そういったイメージを持っていました。現在の定時制高校は、むしろ現行の学校制度の中では、上手く生きられずに疎外されてきた子供たちが集まる最後のセーフティーネットとして機能しています。夜にのみ授業を行う従来型の定時制よりも、午前、午後、夜間と三つの時間帯に分かれて、それぞれに生徒が通学してくる三部制の定時制高校が増えてきています。

そういった定時制に通う生徒たちはどのような子供たちなのでしょう。種々な理由で不登校になってしまった子供、学力不足で定時性を選んだ子供、外国籍で日本語が上手く使えないため定時制しか選択肢がなかった子供まで様々です。置かれた状況は違っても、共通しているのは現在の社会の中で生きづらさを抱えた子供たちだということです。

この状況に対して東京都の教育行政は三部制定時制の拡大や、定時制ではないのですが、「チャレンジスクール」や「エンカレッジスクール」といった容易に入学できる高等学校を整備することで対応しています。選択肢の拡大自体は素晴らしいことで多くの子供たちの受け皿になっております。

それでは、この定時制高校は理想的な場所なのでしょう



か。少し古いデータですが、都立定時制高校で平成19年度に入学した生徒が平成23年度末までに中退する割合38.9%となっています。定時制の受け皿からもこぼれていく子供たちが沢山いるということ。また、この状況に対応する先生の状況も厳しいものです。東京都教育委員会の方針では教諭の配属において一度は島嶼部か定時制を選択しなければならぬようになっ

ています。東京都の高校教諭は伊豆諸島や小笠原諸島といった遠い島に赴任するが、定時制に赴任するかが実質的に義務化されているのです。つまり定時制は、それ程、先生にとっても大変な職場だということなのです。

このような厳しい状況でYESの果たす役割は「バンドエイド」だと私は思います。私達の活動が学校の状況を根本的に変えることは不可能でしょう。でも傷ついた場所を優しく覆って自らの力で治すための手助けはできるはずなのです。

YESが生徒、先生、学校の助けに、少しでもなればという思いで活動しており、私達の活動がほんの僅かでも社会に潤いをもたらすことを願っております。

私達の活動への皆様の今後の、ご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

ボランティアスタッフ紹介

YESの主な活動は高等学校でキャリア教育の授業を行うことですが、実際の授業の場を成立させるためには事前の準備が欠かせません。

授業内容の詳細確認、授業ごとに行われる事前打合せの調整、授業資料の作成、授業へのボランティア募集と詳細連絡、教育委員会への報告資料作成、等々。多くの作業が授業ごとに必要になります。

また、事務局作業は間違いなく出来ていて当たり前と思われがちです。授業の現場で生徒や先生に感謝される表舞台とは異なり、完璧に仕事をこなしながら目立たない縁の下の力持ちとしての活動になります。でも、その事務局の支えなしにはYESの活動は廻っていきません。

今回の「ボランティアスタッフ紹介」は、そんな隠れた

た功労者ともいえる事務局メンバーを紹介していきます。



YES事務局広報・戦略担当
市川 智子

現在、高校との授業日程の調整などを担当しています。主にやりとりはメールで行います。高校の先生は大変お忙しいので、完結に要点をお伝えし、スムーズに出来るように心掛けています。先生からの要望をしっかりと確認し、YESのスタッフに繋げる役目でもあります。

私がYESの活動に参加したきっかけは高校でのキャリア教育・支援の現場について興味を持ったことからです。

始めて参加した高校での授業風景は今でも鮮明に覚えています。机に伏して寝ている生徒、ひたすら絵を描いている生徒、化粧をし続ける生徒：etc. 正直面喰らいました。（これは手強いなくと（笑））。

ですが生徒に近寄り、配布しているテキストの問題が出来ているか聞いてみると、「よく分からないけど書いてみた」と照れくさそうに話してくれました。1対1で接すると、どの生徒も、自分の考えや、授業に関する質問をしっかりととしてくれるのが、とても印象的でした。

YESには多様なメンバーが在籍しており、その多様な大人が関わることで、生徒が何かを感じ、考える機会になったらいいなという想いが

あります。高校生と接すると、私自身も、気づきをもらいます。今後も高校生を微力ながら応援していきたいです。



**YESキャリア教育事業部
NPM認定講師 島田 覚**

こんにちはボランティアスタッフの島田です。民間企業の会社員ですが、時折、学校現場等に出没します。

YESとの出会いは家族の知り合いの講演会に参加した際、たまたまYES創業者の黒沢一樹氏が同時講演した事がきっかけです。偶発的な出

会いでしたが、何かお役に立てればと思いい参加を決意しました。

初めは、参加者に寄添い共感をしているだけでしたが、ボランティアを重ねる毎に、講義時間管理や講義リーダー・打合せ実施等とステップアップし、現在は認定講師として講義を行う事もしております。将来のキャリア形成は

社会環境の変化の中で益々、複雑になる時代になってきたと感じます。環境変化に適合し、豊かな人生を少しでも描ける様、皆様に有意義な時間をお届けしていく所存です。最近では、認定講師のほか事務局とも連携し、キャリア教育の実施企画・運営支援や進捗管理等も併せ行っております。

6月からのYES新体制施行に伴いスタッフが増加しており、増加に伴う企画書等の書類整備・連絡網確立・組織

化等に取り組んでおります。参加者が「YESに出会えて良かった」「輝いて生きていく自信につながった」等を感じられる様、将来につながるきっかけづくりを今後も続けていきます。どうぞよろしくお願い致します。

キャリア教育授業参加ご希望の方へ

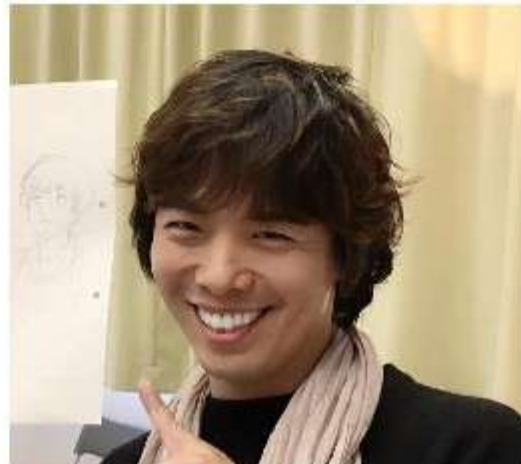
1 / 9 (木)	13 : 30 ~ 15 : 30
1 / 15 (水)	13 : 15 ~ 15 : 05
1 / 22 (水)	13 : 20 ~ 15 : 10
3 / 17 (火)	13 : 00 ~ 15 : 00

高等学校の授業という特殊性のため、場所等、学校を特定する情報は公開することが出来ません。具体的な情報はメールで問い合わせいただけますようお願いいたします。

info@syusyoku.com
shien.com

授業ボランティアの確保に苦心しております。皆様のご協力をお願いいたします。

キャリアコンスナック開始



**YES創業者・理事
黒沢 一樹**

**創業者黒沢の思い
「相談する文化を日本に
根付かせたい！」**

10月から月に1〜2回程度開催し始めたキャリアコンスナックをご紹介します。

「えっ!? スナック経営...」
と思う方もいらっしゃるかと思います。元々のスタートした理由は、私の個人的な思いからです。

そもそも日本では小さいころから人に迷惑をかけないようになさいと育てられているため、「人に相談し人に迷惑をかける」という構図になりがちです。その積み重ねからか相談するという文化が希薄な国、日本。独りで悩み抜いて、事態が悪化することが往々にしてあります。私はこの流れを断ち切りたいと考えました。

ちなみに：みなさまはご存じでしょうか。日本における相談する相手として選ばれる属性を。実は、日本における相談相手は男女で違いがあるといわれています。男性が相談するのはスナックのママであり、女性の場合は占い師だといわれています。

私自身が飲食業界に10年ほどかかわっていたため、さほど難しさを感じずにはじめられることも【キャリアコンスナック】のキツカケとなりま

した。スナックを開業といっても、現在はイベント日のような状態です。月に1〜2回、他店オーナー様から店を使用していない時間帯を借り受けて開催しています。飲み放題3千円で時間無制限。食事は基本的には無としています。お酒をツールとしながら相談する時間を創っています。



そのうえ国家資格を持ったキャリアコンサルタントという相談のプロが相手となりますので、何かしら良いキツカケを創れると考えています。空き店舗や使っていない時間を安価でお貸しいただける方を募集中です。また、ママ・マスターをやってみたいキャリアコンサルタントの方も大募集中。

最後に一言。「相談する文化」が日本に根付けば、今の殺伐とした日本社会に一矢報いることができる私は信じています。気軽に相談できる空気を醸成するひとつのキツカケとなればと思います。ぜひ、遊びにきてください！

※次回開催日【12/22・/29の18時〜23時】。

住所・東京都中央区日本橋

人形町3丁目7-6

ビル一階 LAUNCH

「日本橋Connect」



編集後記

YESの広報第二号です。「こんな記事が読みたい」「こんな企画はどう」といった御意見大募集中です。（森智洋記）